選ぶ理由のある木。

木の恵みを感じるアイテムは
世の中にあふれているが、
「樹木を未来につなげたい」。
そんな思いから生まれた美しい
ローカルプロダクトがいま注目を集めている。
山に秘められた、未来の可能性。
ものづくりの背景に、唯一無二の
精神性と理念があるアイテムを紹介する。

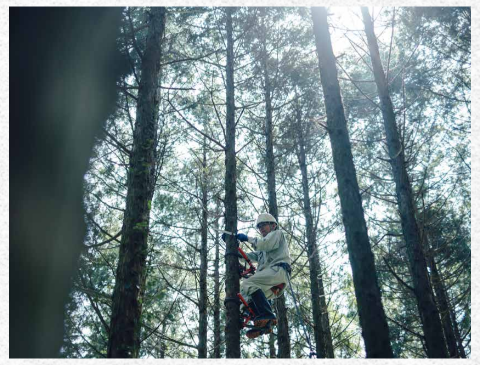
FROM AMAKUSA

天草発、森と海を守りゆく真摯なものづくり。

山からすっと切り出したような、丸太の表情を生かした半月のフォルム。ころんと横たわる姿と木の命を感じる美しい年輪。使うたび、自分の部屋と遠い山林がつながっていくような、不思議な感覚に陥ってしまう。アジアの優れたパッケージに贈られるデザイン賞「TOPAWARDS ASIA（トップアワード・アジア）」を受賞したことでも話題の作品だ。

生みの親である「木のかおり製造所」代表の松坂和幸さんは、お祖父さんの代から3代続く天草の林業家。松坂さんは建設会社を定年まで勤め上げて退職後、ヒノキの森を育んできた家業に本格的に飛び込んだ。木の仕事の誇りや魅力を伝え、過疎が進む天草をどうにかしたいという思いを、止めることができなかったから。「痩せた土地で育った天草産のヒノキは年輪がぎゅっと詰まっている。元々価値が高い木なんです」。豊かな森は、天草諸島の面積の66%を占めている。そのなかでも、人の手が育む森の71%がヒノキの森だという。

質のよく健やかなヒノキを育むためには、間伐や下刈りが必要。ほどよい密度で育てることが、災害防止につながり、「天然の水瓶」の役割を果たすことにもなる。森を守ることが、天草の豊かな海を守ることにつながると松坂さんは語る。「街で暮らしていると、自然はどこか遠いものに感じられるかもしれません。それでも、少しでも山に気持ちを向けてもらえたらいいなと思って、今日もものづくりを続けていきます」。



AMAKUSA HINOKI PURE ESSENTIAL OIL

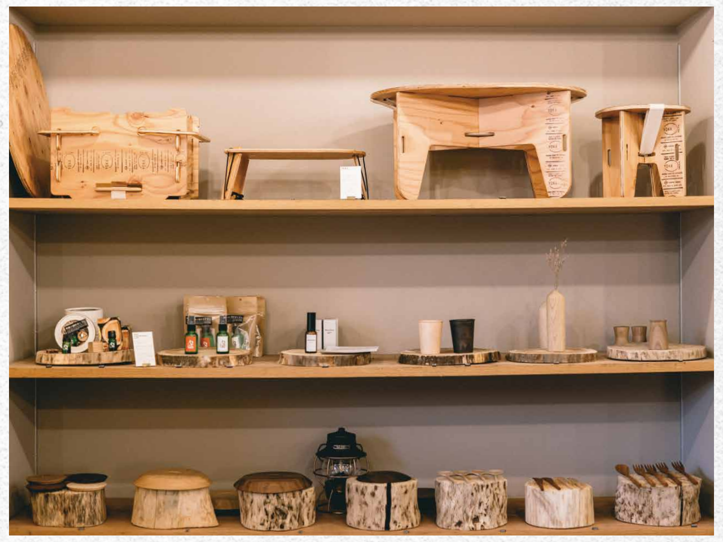
4,950円

天草ヒノキの枝葉の部分から、水蒸気蒸留法でエッセンシャルオイル（精油）と芳香蒸留水を抽出。蒸留する際の水は、天草市を流れる平床川の源流にある「百貫様」という巨石から湧き出る水を使用。付属のディフューザーにオイルをたらせば、森林浴気分に。

木のかおり製造所
https://kinokaori.theshop.jp/

FROM TSUBOI × MINAMI OGUNI

樹木の新たなサステナブルの形を探る、瑞々しいクリエイション。

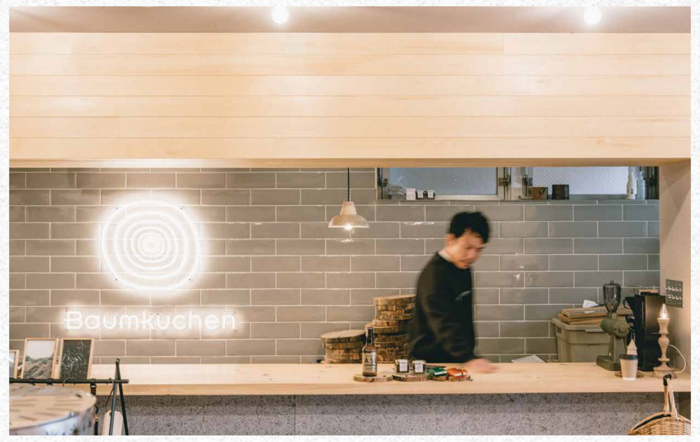


「小国杉の特徴ともいえるやさしい板目と、やわらかく広がる波のような音が心地よい。ずっと長い間大切にしてもらえるクラシックなデザインで、まさにエイジングしていくスピーカーです」。

昨夏坪井町にオープンした「バウムクーヘン」は、「森林（もり）と都市（まち）が共存する未来を」という力強いブランドメッセージを掲げた「宮村山業」が手がける、森林資源を活用したプロダクトを発信する店だ。代表の宮村啓さんは、資源リサイクル会社のサラリーマンを経てこの世界に飛び込んだ「挑戦者」だった。

ありのままの自然のなかで木と向き合う職人、その命の向き合い方に惹かれて修行をスタート。熊本市中央区に拠点をもつ、熊本唯一の林業会社として独立創業して4年。依然として担い手不足が課題の林業界の間口を少しでも広げたいと、「森」と「まち」をゆるやかにつなぐ「ハブ」になればという思いから場づくりに着手した。

ここにしかないオリジナルプロダクトを次々と発表するなかで、南小国町在住の音響デザイナー、ビリー・ウッドが手がける「Higo Beat」とのコラボレーションウッドスピーカーは各方面で話題を呼んでいる。単に魅力的なデザインや心地いい素材を使うだけではなく、誇りをもってそれを選ぶことが、自分にも、社会にもいい影響を与えてくれるもの。サステナブルなものづくりと地域性、デザイン性を両立しているもの。そんな商品を求める人たちが増えるなかで、「バウムクーヘン」の「在り方」はひとつの到達点といえるかもしれない。



ウッドスピーカー BAUM×SUGI version5

ペアで 65,000円　※要オーダー

南小国町の里山に工房をかまえる「Higo Beat」の創設者、音響デザインのスペシャリストであるBilly Woodとのコラボレーション。木は小国杉、吸音材はプラスチックボトルのリサイクル、日本でとれた蜜蝋による仕上げなど、サステナブルな取り組みにも注目を。

Baumkuchen
熊本市中央区坪井2-1-29-101
※営業日はインスタグラムで確認を
IG @baumkuchen_outdoor

photo:Haruki Anami